とかち新聞

主筆　松山　明

(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話2551番

毎旬5の日発行　1部50円1カ月150円1カ年前納1,500円

決まるか学園都市！

道の建設構想発表

道の研究学園都市建設プロジェクトチームでは、このほど建設構想に関する報告書を発表しましたが、このたびも依然として建設位置についてはふれずじまいで、全体的な誘致運動に拍車をかける一方で、特に足寄、音更、清水、広尾、浦幌、鹿追の六町が名乗りをあげている十勝管内は複雑

想をもつているものの、用地問題、住民の反対運動などをおもんばかつて計画を公表しないのが建て前で、小樽を基点として札幌～千歳～夕張～帯広～足寄への北海道横断高速自動車道は足寄において釧路と北見へふりわける重要な位置にあるので、この地帯を空陸交通の要衝にネライを定めているのは事実で、問題は地元の受け入れ態勢いかんにかかつているようです。

問題は空港の受け入れに

これにたいして足寄町としては十勝という狭い考えでなく道東地区という大きな視野で運動すべきだと主張したが容れられなかつたものですが、このたびの道の建設構想によつても「阿寒学園都市」はいよいよ有望になつたとしています。

その理由としては

一、将来構想として人口十万～十五万人程度を想定し、総面積七、五〇〇㌶を設定することになつたので、山紫水明、風光明媚なところでこれだけの大面積は足寄町をおいて他にはなく、しかも自然保護の国立公園地帯をはずれているので、建設に支障はないこと

二、高速道路は足寄が釧路と北見への分岐点となつていて「学園都市」よりに軌道修正の作業がすすめられており、国道二四一号線沿いであり、鉄道は白糠線はラワンまで工事線として用地買収にすすんでおり、北見相生までの阿寒線が浮かびあがつていること

三、もともと提唱した田中首相自身が幹事長時代にこの現地を視察していて「阿寒」と名指していること

四、釧路、網走、根室の道東三支庁管内の総合開発促進期成会が「阿寒」誘致に一致していること

五、中川、安田の両代議士がハツキリと支持を表明していること

六、社会党道本部がこのほど堂垣内知事にたいして「学園都市は道東へ設置するように」と申し入れていることなどがあげられており、道の立場としては対政府（文部省、建設省、道開発庁など）折衝を前にして建設位置の決定については慎重を期していますが、幹部の意向としては「阿寒」が本命といわれています。

しかし、ここで問題になるのは「空港の利用が比較的容易である」との交通条件にポッカリと穴があいていることで、二千五百億円を投じて大がかりな頭脳都市を建設するというのに、近くに航空の便が得られないのでは困るということで「阿寒期成会」としては現地は霧が多いので、できれば足寄から上士幌へかけてゼヒ空港の誘致をすすめてほしいといつています。

国や道では帯広と釧路のあいだに大型空港をとの構想をもつているものの、地元の反対運動などをおもんばかつて計画を

国会に犯罪容疑者

政府は日本共産党を破壊活動防止法の対象団体として調査をつづけることを確認

×　×

暮の総選挙で三十八名が当選して共産党の躍進ぶりが評価されたばかりなのに、暴力で内乱をおこすおそれがあるという政府の見解。

×　×

これでは野坂議長以下の共産党議員は犯罪容疑者として国会内を横行していることになるわけで、このレッテルは果していつまで！。

森と湖の都市にデパートも

道の構想による研究学園都市は

長経　一五キロ
短経　五キロ
面積　七、五〇〇㌶
（余裕地四、七〇〇㌶）

の雄大な自然環境のなかに国立総合大学と国立寒地研究所を核として

▲人口想定
大学
大学　七千人
大学院　三千人
教員　二千人
職員　三千人
寒地研究所
研究員、職員一千人
二次産業　一千五百人
三次産業　一万人
家族　二万三千三百人
計　五万八百人
（将来は十～十五万人）

▲面積想定

△大学キャンパス五〇〇㌶
豊富な自然林と湖沼などを配し、緑と水に包まれた環境を整備し、自然科学系、人文、社会科学系などの施設を建設、関連して研究資料情報センター、大型計算機センター、芸術文化センター、スポーツセンター、国際研究会館、ゲストハウス、大学会館、保健管理センターなどを建設して市民に開放する　五〇㌶

△寒地研究所　研究所、大型専用実験施設、共同研究実験施設、データーバンク、野外実験場（雪崩、積雪、融雪害施設など）積雪寒冷観測所などを設置して大学の応用科学、自然科学部門との連携をはかる　六五㌶

△義務教育施設等　六五㌶
幼稚園一〇園、小学校七校、中学校四校、高等学校二校

△中心地区　五〇㌶
歩行者専用幹線道路を軸に行政センター、主要公共施設、図書館、美術館、デパート、専門店、商店街、買物公園、娯楽施設、市民広場、公園、緑地など

△住宅地　一、一〇〇㌶
集合住宅、中高層住宅市街地住宅、個別住宅を設け、計画人口五万人のうち三万人は集合住宅地に、二万人は別住宅地に居住するものとし、近代生活に適合したバラティーに富んだ建築様式を採用し歩車道分離帯などを設置し、安全性を充分考慮する

△公園、緑地　二〇〇㌶
総合公園二、風致公園二、運動公園二、近隣公園一〇、児童公園四〇、緑地五〇㌶

△郊外緑地およびレクリエーション施設　二〇〇㌶
ゴルフ場二、キャンプ場二、児童遊園地一〇〇㌶、郊外緑地一〇〇㌶のほか都市外周部は緑地あるいは自然保全地帯とする

△関連企業地　二〇〇㌶
消費的二次産業、関連三次産業

△空間余裕地　二三五㌶
住宅地などの発展余裕地を郊外に保留

△都市施設など
一、都市間交通
新幹線鉄道、高速自動車道、空港などの利用が比較的容易であり、かつ連絡道路としての国道、道々などの整備

二、都市内交通
自動車交通と歩行者交通の分離を明確に計画し、中心市街地および住宅地においては、歩行者専用路網を整備するとともに、大学、研究所住居地区などを結ぶ交通ネットワークを整備する

三、キャンパス内交通
一般自動車の交通を禁止し、歩行もしくは自転車による区域とする

四、通信
全国的な情報システムとネットワークを整備

五、電気、ガス、地域集中暖房
都市の美観などの見地から地下埋設の共同溝を設置し、都市全域にわたつて供給する

六、上下水道、廃棄物処理施設
適切な施設を都市全域を対象に、先行的、計画的に整備する

七、医療保健、生活福祉
住民生活に不可欠な保育所、診療所、病院などについて先行的、計画的に整備することにしています。

こんな総合大学に

ここに設けられる総合大学については

一、大学はいまや少数のエリートの養成機関ではなく、むしろ大衆教育の場であり、学問の研究とともに職業教育と人間教育の場として求められるべきで、従来のような狭い専門的学問領域を超えた総合的な知識、あるいは国際的視野に立つての学問領域が要請される

二、大学への進学率は全国平均二六、八％にたいして本道は一九、九％と下まわつており、その半数が道外の大学へ進学しているが、これは本道の大学収容率が四〇、一％であり、その施設の絶対数が不足していることが要因で、和和五十五年には三万人程度の増加が予想されるので、すくなくとも五万人程度の大学施設整備が必要と思われる

三、北方圏をはじめとする諸外国との学術文化の交流、教授、学生の計画的交流をはかるとともに、地域社会との結合という使命から市民公開講座、社会人の再教育、放送公開大学、聴講制度、他大学との単位相互認定制度、文化センターなど施設の開放により開かれた大学とするというものです。

待望の老人ホームを建設

本別町議会

臨時オ一回の本別町議会は二十四日午前十時にひらき、会期を一日としてただちに議案に入り、一般会計予算補正を上程

水元町長　本日急拠臨時議会を招集したが、多年県案の養護老人ホームが年度末になつて急拠決定したので審議して頂きたい、老人ホームは十二月下旬に厚生省でワクが余り本別町への意向調査があり、財政上の措置がついたので回答した設計その他の準備をすすめており、予定地は帝セン跡地を購入のさいの用途別の概要設計は五十人が限度だが五十一名を収容し、従来のホームは五～七名収容だが一室一名あるいは二名の二種とする、用地は充分あるので拡張して百名まで収容できるように準備したい片斜面は二階をあげられる設計として準備する、七千八百万円となり持ち出しは三千六百万円は必要なので十二月の定例会で四十七年度の決算見込みから財政調整基金に二千万円を積み立てることにしたが変更してこちらの財源にふりむけたい、一億一千万円の財政調整基金は庁舎建設に充当しているが、当初予定の起債がふえて、庁舎前庭の整備に相当額の起債が見込まれることになつたので、一千六百万円を繰り出しても庁舎建設に支障はない、四十八年度の一般会計の財源にも事業遂行上心配はない、すでに年度末を控えており全部繰り越すことに道、財務部とも諒解し本日提案のはこびとなつた、関係団体の協力に厚くお礼を申しあげたい

松下議員　建設敷地について単行議決の必要はないか

渡辺助役　買収ずみの土地である

安久津議員　多年の念願で慶賀にたえない、関係者もご苦労だつた、最近の物価高などから完成に心配だが、起債や補助は木材が倍になる前の指数か、入札しても完成までに不安、支障はないか

水元町長　物価をどう押えか面倒で、巷間伝えられる価格で設計はできない、多少のムリはあるがこれからの日程として議決によつて告示し、三月上旬に入札し、十二日からの定例会で請負の議決を頂き、三月下旬に着工として八月末か九中旬に完成させたい、私としては八月までに完成して庁舎といつしよに落成式をやりたい、こんごの物価は予測のつかないもので異常の事態がおきれば若干の修正がおこるかもしれないがおこらないように執行にあたりたい、これで絶対にできるともできないとも申しあげられない

作間議員　庁舎の前庭になりますが、年度末の関係から、このうち七、七〇万円は四十八年度に繰越明許としています。

このあと水元町長から

一、多年の県案であつた農業講習所の農業大学校昇格に五千万円が認められ道の上おき約一億七百万円で本館、管理棟の建設が本年から二カ年で実施され、来年生徒募集する

二、関連事項として、仙美里から講習所までの道路は九割九分採択は間違いない、農業大学校の完成と同時に仙美里から全面舗装となる

三、簡易裁判所が全面改築となり、本年六月から鉄筋コンクリート建となるその間、元登記所あとの老人クラブを利用するなどの報告があつて、午前十時二十八分に閉会しました。

△起債のワクがつくことになつたのか

水元町長　四十九年度にやることにしていたが、四十八年度に起債をうけて実施したい

などの質疑があつて全会一致で議決しましたが、この養護老人ホームは

△国庫補助金　二、一一二万円
△道補助金　一、〇五六万円
△町債（国民年金）一、一〇〇万円
△基金繰入金　一、五八九万七千円
を財源として

△工事請負費　七、四〇〇万円
△備品購入費　三七〇万円
△設計委託料　八〇万円
△建築確認手数料　七千円
△旅費　七万円
を計上して建設することになりますが、年度末の関係